

2019年5月期(第33期) 決算説明会

2019年6月28日

株式会社ウェザーニューズ
代表取締役 草開 千仁



2019年5月期 実績

【全般】

- 連結業績
- 売上高増減分析
- 営業利益増減分析

【個別分析】

- 航海気象
- モバイル・インターネット

【投資状況】

- 投資の状況

【株主還元】

- 期末配当

今後の業績目標

【次期 中期経営計画】

- 重点施策
- 主要な事業の計画
 - 航海気象
 - モバイル・インターネット気象
- 3か年計画

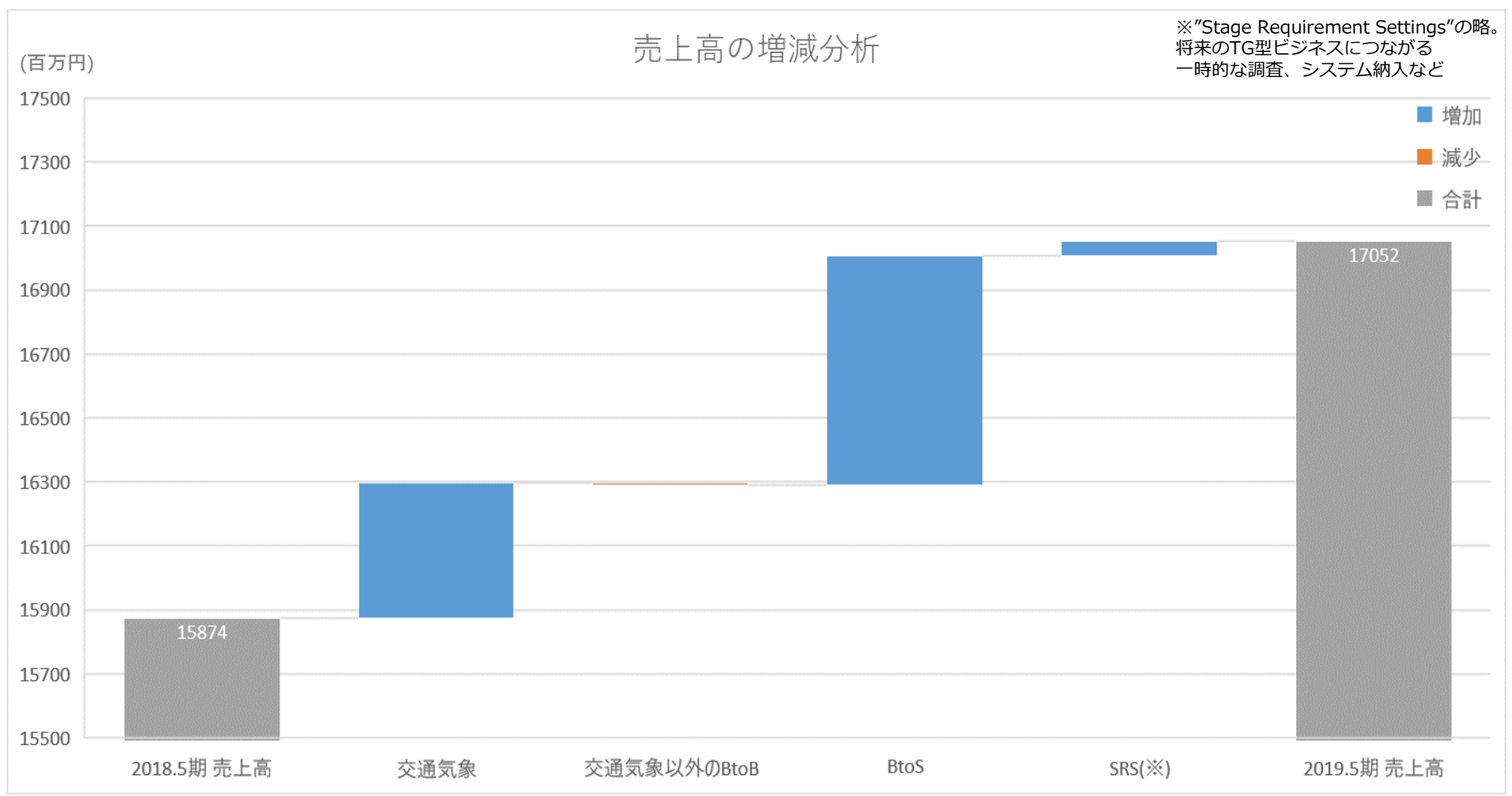
【2020年5月期 業績予想】

- 業績見通し

2019年5月期 実績

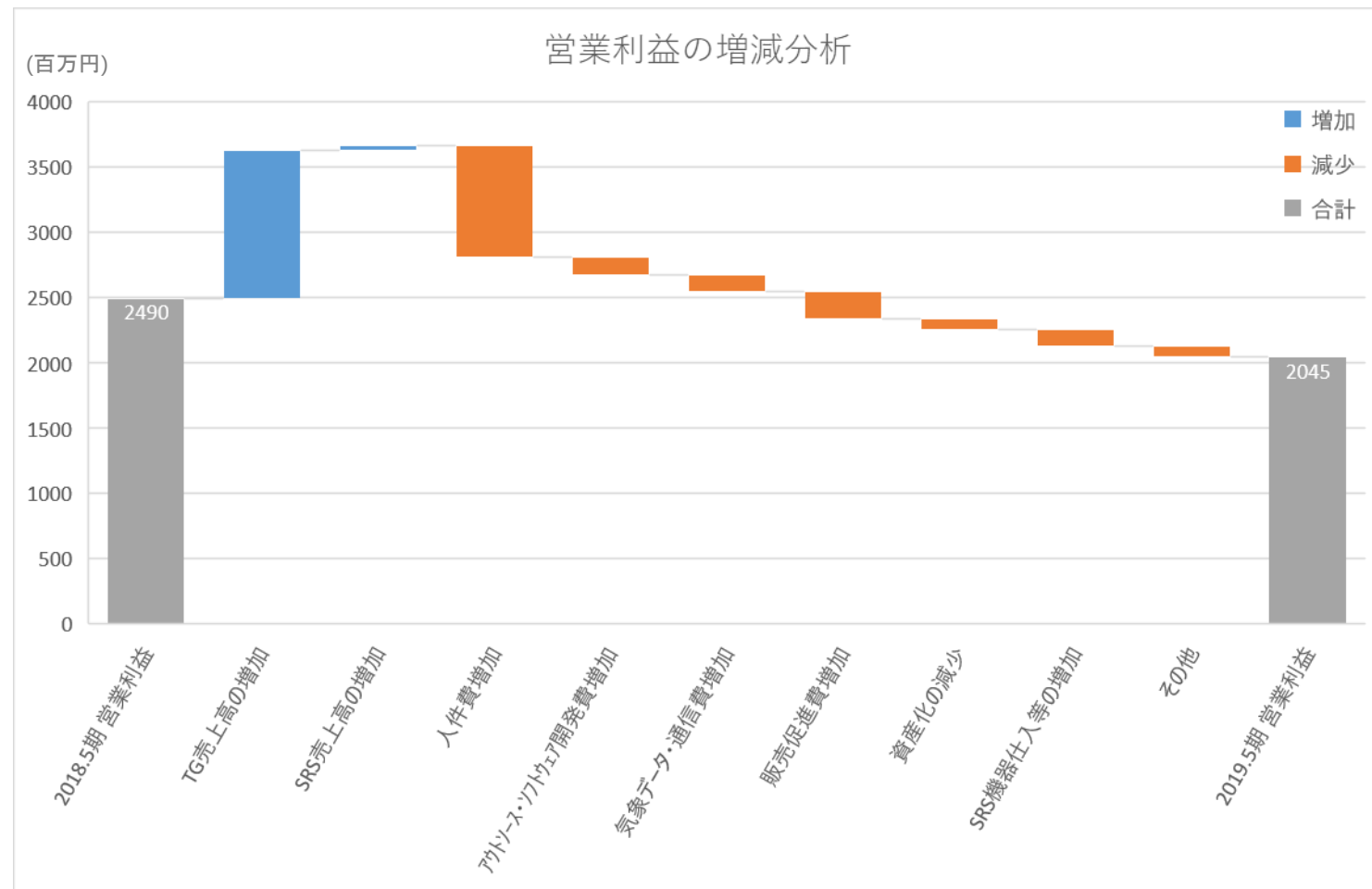
(単位：百万円)	2018.5期 (第32期)	2019.5期 (第33期)	前期比伸び率
売上高	15,874	17,052	7.4%
(BtoB売上高)	9,616	9,961	3.6%
(BtoS売上高)	6,257	7,090	13.3%
営業利益	2,490	2,045	▲17.9%
経常利益	2,495	1,930	▲22.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,138	1,370	20.4%
EPS (円)	104.49	125.63	20.2%

- [BtoB] 航海気象、航空気象、道路気象がサービス提供数の増加により 3.6%増収
- [BtoS] レベニューシェア・スマホ向けサービスの好調・広告事業の成長により13.3%増収
- [営業利益] 人材・システム・広告への投資に加え、先行的システム開発の増加により減益
- [当期純利益] 前期のWNI Franceのれんの減損の反動により増益



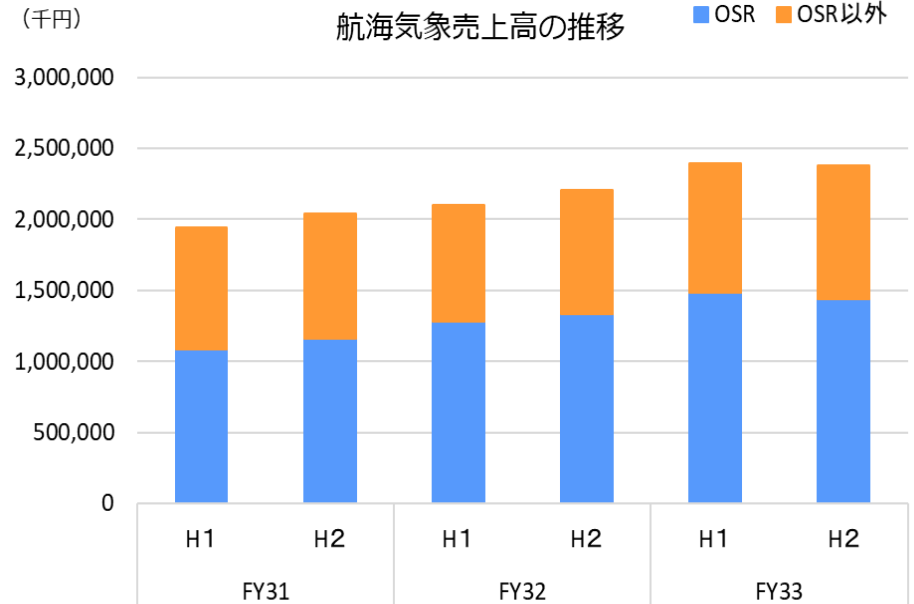
<BtoB> 航海・航空・道路気象を中心にトールゲート事業が増収

<BtoS> レベニューシェア売上増加等によりスマホ向けサービスが好調に推移
広告事業が順調に成長

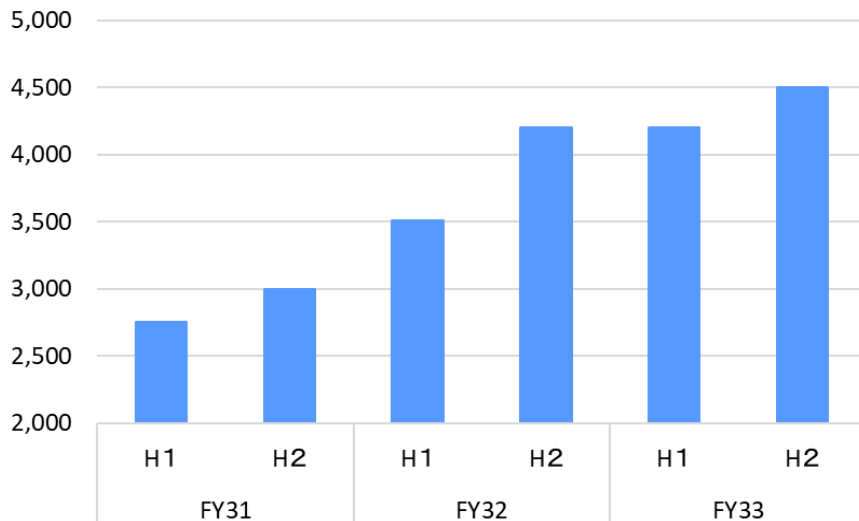


- グローバル展開を加速するサービススタッフ、新サービスを継続的に創出する開発人材の積極採用による人件費の増加
- 広告投資・中長期を見据えた先行的システム開発投資の増加

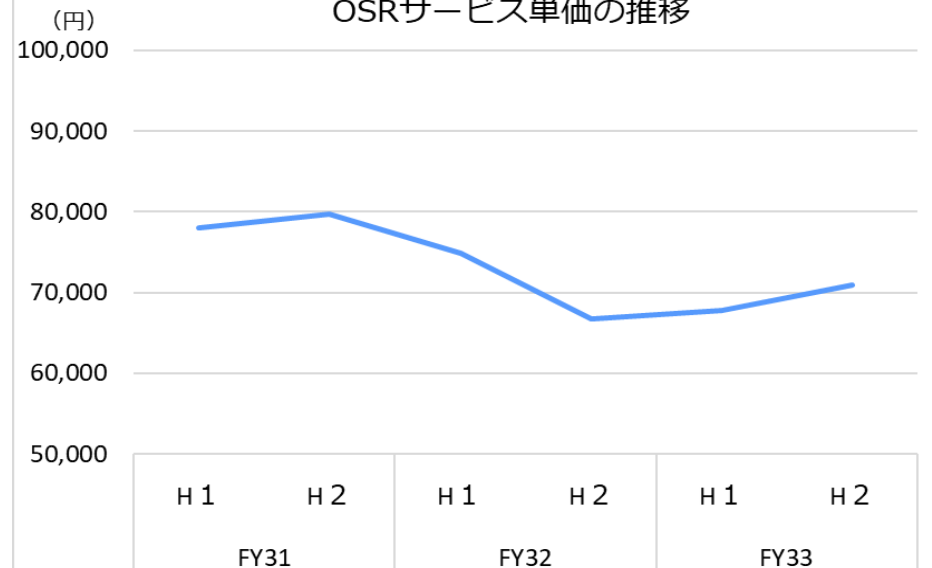
- T-MAXによるサービス提供数の増加により増収
- 2019.5期末のOSRサービス隻数は4,500隻（前期末4,200隻）
- OSR単価は横ばい



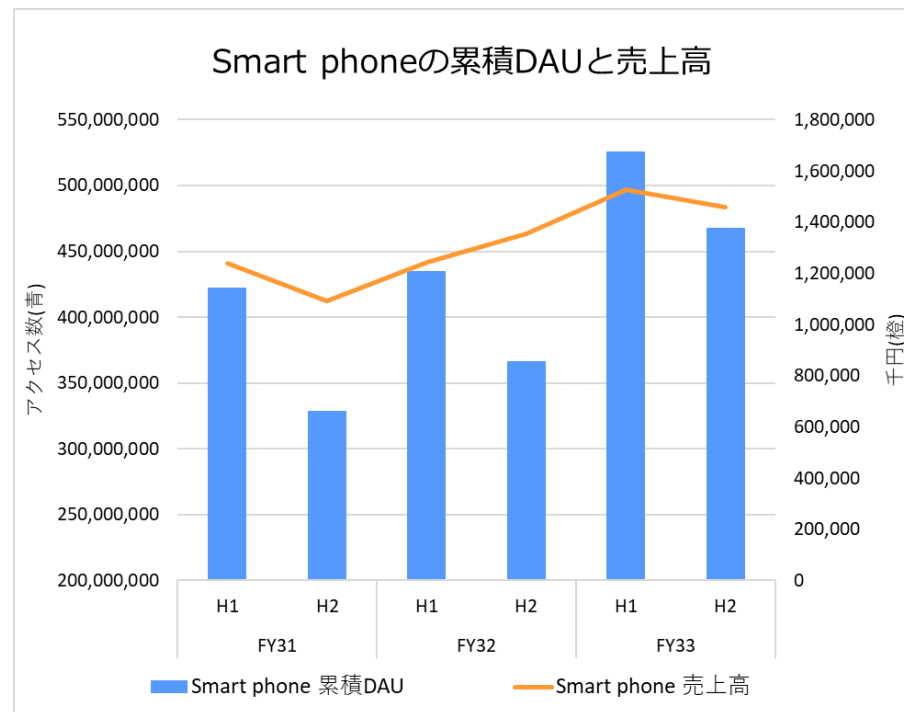
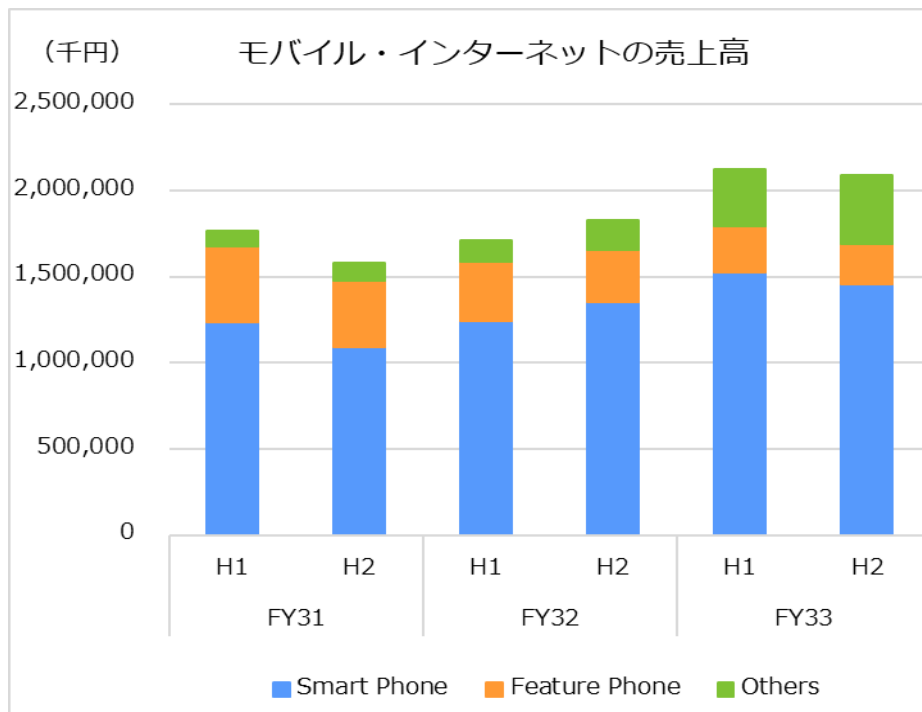
OSRサービス提供隻数の推移



OSRサービス単価の推移



- Smart phoneでは累積DAU(※)の増加に伴う、レベニューシェア売上の成長およびアプリ会員の増加により増収
- Smart phoneにおける今期累積DAUは約9.9億アクセス（前期累積DAUは約8.0億）
- Feature phoneは市場縮小の影響により減収
- 広告ビジネスが順調に成長し、その他で増収



※1日にサービスを利用したユーザー(アクティブユーザー)の数の累積のこと。

天気は毎日利用することから、累積DAUがWNIビジネスにマッチする指標として採用。

Smart phoneの累積DAUの算出には、アプリ(ウェザーニュース), Smartweb,キャリア提供コンテンツ等のアクセス数を自動集計。

(単位：百万円)	2018.5期 (第32期) 実績	2019.5期 (第33期) 実績
設備投資	1,029	859
減価償却	709	721
研究開発	477	608
従業員数 (連結)	914名	1012名

- 共通インフラ (ソフトウェア・データベース) 整備に伴うソフトウェア開発コストの減少およびサーバールーム投資の減少により設備投資が減少
- AI等の技術を用いた解析業務の拡大に伴い研究開発が増加
- グローバル・IT・管理部門の人材への投資に伴い従業員数が増加

方針

「高貢献、高収益、高分配」の基本理念の下、先行投資による減益があったものの、TGビジネスが継続的に成長していることから、期初計画の1株あたり年間配当金基準100円を据え置き、期末配当を50円とします。

直近の配当実績

	中間配当	期末配当	合計(年間)
2016.5期	35円	65円	100円
2017.5期	50円	50円	100円
2018.5期	50円	50円	100円
2019.5期	50円	50円	100円

今後の業績目標

第四成長期
Stage3

Global Business (BtoB 50:50)

BtoB市場において国内・海外売上を50:50に

市場展開

- 1 交通気象・環境気象のグローバル展開
- 2 予測精度No.1 & コンテンツ化による生産性向上
- 3 マーケットを後押しするクラウド展開
- 4 気候変動に対応した新規事業

経営基盤

- 1 事業を通じた持続可能な社会への貢献 (ESG 投資)
- 2 働きがい向上 (アントレプレナーシップの活性)

気象×航海

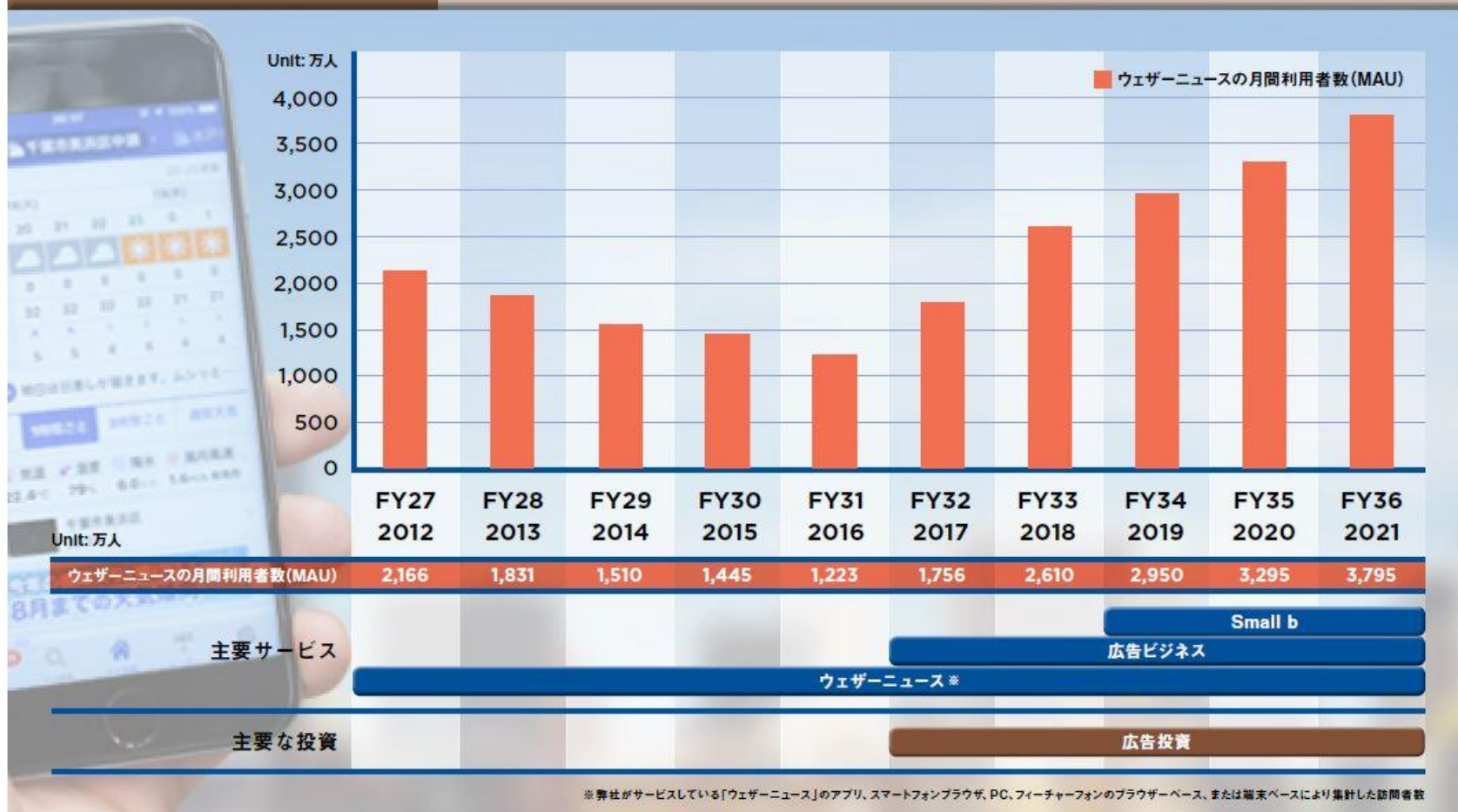
Routeing Service 10,000 隻 (全世界の外航船のシェア 50%)



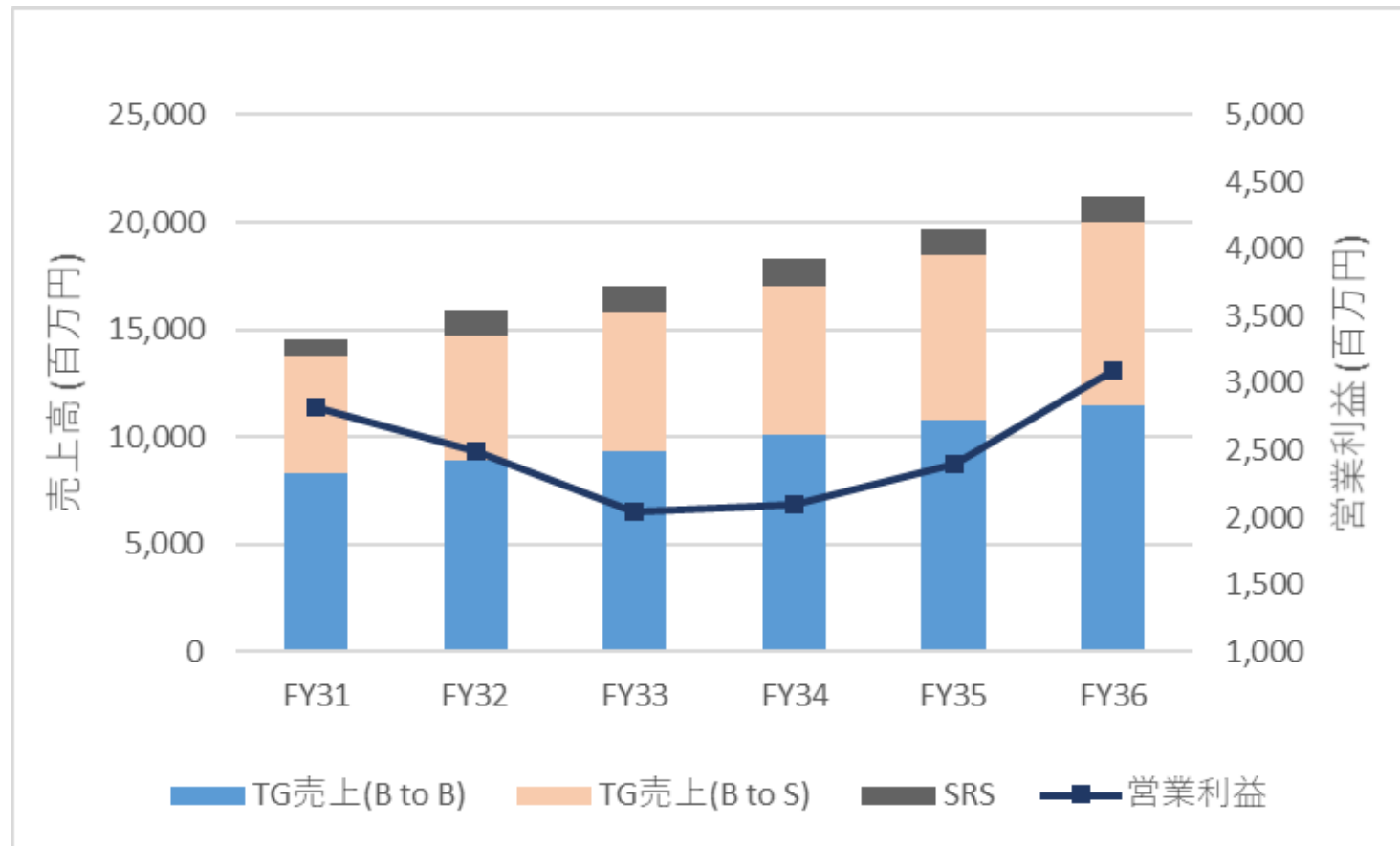
- 船隊計画全体の最適化サービスであるLOOP・T-Maxの拡販によりOSR隻数増加を狙う
- オーナー市場の獲得を狙い、座礁・衝突・気象海象によるダメージリスクの対応策を提供するNAR (Navigation Assessment & Routeing) を展開予定

気象×個人サポーター

日本で No.1 の気象コンテンツプラットフォームの実現



- MAUの上昇によるアプリ会員の更なる増加と広告事業の成長により継続的な増収を計画
- 中小企業向け市場へのアプローチとして、Small bビジネスを計画中



- 過去3年の投資によるデータベース、開発・運営プラットフォームの整備により、向こう3カ年で生産性向上に伴う利益増を見込む
- 未来投資は一巡するも、2020年5月期は一時費用の影響で営業利益は同益程度を計画
- 生産力の底上げによりTG増は年間15億円ベースまで上昇、2022年5月期末にはTG売上200億円を目指す

(単位：百万円)	2019.5期 (第33期)		2020.5期 (第34期)		通期伸び率
	上期実績	通期実績	上期予想	通期予想	
売上高	8,129	17,052	8,800	18,300	7.3%
(BtoB売上高)	4,765	9,961	5,000	10,700	7.4%
(BtoS売上高)	3,363	7,090	3,800	7,600	7.2%
営業利益	882	2,045	800	2,100	2.7%
経常利益	876	1,930	800	2,100	8.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	638	1,370	500	1,500	9.5%
EPS (円)	58.58	125.63	45.74	137.22	9.2%

- 交通気象の各市場の成長により、売上高は11期連続の増収を計画
- 一時費用（Flash終了に伴うシステムリプレイス・携帯電話基地局に設置した観測機器の新型へのリプレイス）の発生に伴い、2020年5月期の各段階利益は同益を計画

